

視察報告書

1 視察日時 令和8年8月25日（火） 13時30分～16時00分

2 視察先 美咲町役場「賢く収縮するまちづくりについて」

3 視察目的 所管事務の調査にあたり、他市の取組を確認

4 視察参加者 ・安藤 利博 ・松田 勲 ・大口 浩志
・中田 浩二 ・田村 勝

5 視察概要

「賢く収縮するまちづくり」についての内容と、その後の進捗状況についての説明を受けた。

6 所 感

- ・美咲町の人口は約1万2,000人で赤磐市とは人口規模は違うものの、赤磐市も山陽団地、桜が丘を除いた旧来地区の人口は約2万人であり、美咲町は3町合併、赤磐市は4町合併であったことから、旧来地区の状況には共通点が多いとみられる。また、合併に際しては旧町それぞれが同種の公共施設（庁舎、学校、公民館等）を残したままであったことも両市町で共通している。このことから行政視察先に美咲町を選んだ。
- ・赤磐市は公共施設等総合管理計画を作成しているが、これまでの成果は熊山支所、公民館の解体ぐらいしかなく、計画作成後約10年が経過するがほとんど整理・再編は進んでいない。
- ・これに対して美咲町の計画作成は赤磐市と同時期であるが、既に売却・解体施設が49施設83棟、処分床面積は5万1,000㎡、実に47.6%の削減を実現している。
- ・この背景には青野町長の「未来の子供たちから、あの時代の大人たちは何をしていたのか」と言われなかったために、人口減少を受け入れて「これからの時代、人口減少は避けられない。人口減少に見合った大きさに、まちをつくり替える」、ダウンサイジングが必要だとの信念からの強力なリーダーシップ、行動力があつたとみられる。
- ・進めるにあたって施設ごとに「施設カルテ」を作り、施設稼働率、実利用者一人当たりコストを算出した。また、「単なる収縮」、シュリンクだけでなく、住民生活に必要なものは残し、更に充実させる「賢く＋収縮」（スマート・シュリンク）を両輪としている。
- ・具体例として、規模は縮小しながら機能の集約を図った多世代交流拠点施設「みさキラリ」や、旧旭小学校を活用し8機能を集約した「あさひなた」が作られている。また小中学校を統合した岡山県で1・2番目になる小中一貫

の義務教育学校（旭学園、柳原学園）も開校している。

- ・ハード面だけでなく、81 自治会を 13 の地域運営組織（協議会）に再構築し、小規模多機能自治（地域が自立する力を身につけ自立する）を展開している。
- ・当初は総論賛成、各論反対の意見ばかりで苦勞したが、粘り強く対話を重ねてここまで進めたとのこと（参加者数人の少人数での対話を積極的に進めた）。
- ・公共施設の整理・再編や、住民自治意識の醸成、意識改革については、赤磐市も同じ課題を抱えており大変参考になった。また、今回の視察には議員だけでなく、執行部からも財務部長・担当課長・職員も参加した。赤磐市での今後の取り組み強化を期待したい。
- ・今回の視察対応には忙しい中を青野町長自ら当たっていただいた。2 時間強の説明後には、30 年後の取り壊しも視野に入れた鉄骨造りのプレハブ町庁舎や、みさキラリも案内してもらった。